

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 引野 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学, 英語)の結果

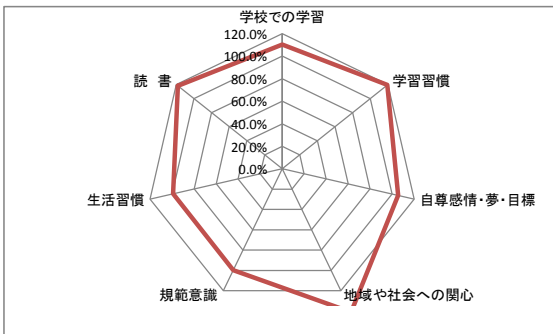
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・話すこと・聞くこと・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の領域は全国平均を上回っている。 ・日常的に、文章を読み取る力と自分の考えを文章で表す力を身に付けさせる。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	・話すこと・聞くこと・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	
	努力が必要な問題	・読むこと・記述式の問題の正答率	
数学	全体的な傾向や特徴など	・数学的な見方や考え方は、身に付いているが、数量や図形などについての知識・理解が不足している。 ・基礎的・基本的な知識を身に付け、記述式の問題に対応できるよう取り組む。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・式と計算・関数	
	努力が必要な問題	・図形	
英語	全体的な傾向や特徴など	・読むこと・書くことは、全国平均を上回っているが、聞きとる力をつける必要がある。 ・選択式・短答式の問題は、全国平均を上回っているが、記述式の問題は、努力を要する。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・読むこと・書くこと	
	努力が必要な問題	・聞くこと	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に出される宿題を中心に家庭学習に取り組む習慣が身に付いてきた。 ・学校の授業時間以外の学習時間が「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」と回答した生徒がいずれも全国平均を上回った。 ・朝読書に1年次から取り組んでいるので、「読書が好き」と回答している生徒が全国平均を上回っている。 ・地元の祭りや市民センターの行事に参加する生徒が多いので、地域や社会への関心が高い生徒が多い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・授業中に出される宿題に取り組むことで、知識・理解は身に付いてきた。身に付いてきた知識・理解を活用し、記述する等、表現する力を身に付けさせたい。そのために生徒が、主体的・協働的に考えを深め、広げ、課題解決ができる授業の改善に取り組む

② 家庭生活習慣等に関する取組

・各学年の発達段階に応じた体験学習を取り入れ、キャリア教育を推進していく。夢や目標を実現するために、自分の適性を考え、系統的に学習を進めていく。
・各教科等で学んだことが、将来の生活に活かされる指導を学校と家庭が協力して行う。自立にむかうところを育み実践力を身に付けるよう取り組む。